

委員会視察成果報告書

令和6年2月2日

犬山市議会
議長

柴田 浩行様

議員名 諏訪 毅

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和6年 1月 25日(木) ~ 令和6年 1月 25日(木) (0泊 1日)
(2) 視察地	兵庫県宝塚市「自治体DXについて」
(3) 視察の種類	常任委員会 (総務委員会) : 会派 ()
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	<p>宝塚市は、2021年7月に行財政経営方針を策定し、DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進を掲げ、「DXの本質である『変革』を重視し、これまでの延長線での発想や行動にとらわれない職員の育成や、時代の変化に対応できる組織づくりを進め、DXを推進します」としている。当日は、天候不順により、新幹線などが遅延したため、宝塚駅周辺の視察については、宝塚駅前サービスステーションの設置場所、サービスステーションのサービス内容等を確認するのみにとどまり、十分な視察はできませんでした。宝塚市役所に於いて、「宝塚市のDXについて」視察を行った。データ利活用の主な取り組み内容として、庁内公募により立ち上げた、データ利活用推進チームADUPTの取組や、業務改革の主な取組内容として、S.M.A.R.T (業務改革ワーキンググループ) を軸とした取組などの説明があった。ADUPT, S.M.A.R.Tと共に、若手の職員が自所属の業務プラス、週に半日から1日程度活動を行っている、あった。</p>
(5) 犬山市に対する提言	<p>宝塚市では、データ改革推進チームや、業務改革ワーキンググループを軸とした取組で、DXの推進が行われていた。又、公募で集まった若手の職員が、自分の業務と両立しながら活動を行っている。</p> <p>宝塚市のようにDXを推進していく場合、組織の垣根を超えた取組等が必要と考える。その為には、部課長などの管理職の方々が、DX推進に理解をし、携わる若手職員などのバックアップが必要である。</p>

